

## 四月の幼稚園

幼稚園の終了式がすんで遊びなれた幼児達が去つた後の幼稚園の物淋しさはこの事に経験のある人のみか味ふのであるが、この寂漠の後には又新らしく来る小さい人たちを迎へる喜びもあるのである、うれしく楽しく新入園児を迎へるに、心もちの上の用意と共に、物的の設備の上にも細かい注意がほしいものである。

砂場の砂は充分であらうか、砂遊びの道具は不足ではなからうか。ブランコ、スベリ臺なご運道具の上にも心して手おちのない様に、又おまゝご道具の補ひ、その他のおもちやの事なご、新入幼児の遊び場所、遊び道具なごについて新學年の初めは殊更に注意して出来るだけ行届いたものとして用意しておきたいものである。

又外遊びの道具の用意の外に繪本や、積木、粘土、色紙なごの室内遊びの材料なごも豊富に準備しておいて、幼児たちを喜ばせたい。

## 及川ふみ

新入幼児は、入園當初は自分たちの面白い遊び場所である事はわかりながらも何ごなく不安な心持も多少あるやうである。これはもつごもな事で今までごは、ちがつた大勢のお友達ご遊び、なじみのない保姆さん方ご遊ぶのであるから自然のごごである。

こんな時に我々の幼児の保育の第一歩は先づ幼児に親しくなるごいふ事である。入園當初は、數日は専ら幼児に親しくなる事で盡きてよい。毎日くの保育案もこれをめやすごして、たてる事である。系統的保育案にのせられてる生活訓練も、課程保育案も親しみのうちに實行してゆきたいものである。

ここに生活訓練は親しみあつてこそ真にその目的が達せられるので、朝登園の時の挨拶もまたお歸りの時の挨拶もお互に形式ばらずに自然の状態で出来てほしいものである。親しみが出来てくれば幼稚園内のお友達同志の禮儀作

法なぎさいふ事なぎも小さいながらも自然と出来て来るものである。

以上の様なことから四月新入兒に對する保育案さいふのを立案して見たい。

第一週 四月五—六日

金 第一日の朝は三々五々ばらばらに幼兒たちは保護者に連れられて来るのであるから、保育室の中には幼兒たちの遊び道具や繪本なぎを用意しておいて自由に遊ばせておく。大體出揃つた頃に先輩年長組の幼兒の集つてゐる遊戯室に入つて形ばかりの入園式をする。

この時年長組の幼兒たちはラヂオなぎにて新人の幼兒たちも聞き覚えのある唱歌なぎ二三歌つて歓迎の意をあらはすこよい。

式は簡單に終るので各自保育室に歸つて定められた席につく。早く親しくするためにはその幼兒の名前を覺える事が第一である。一人く名前を呼んで出席をさる。第一日はこれで終りこする。

土 午前九時—午前十一時

遊び道具を備へておいて自由に遊ばせておく。名前を呼び出席をさつて後、各自の帽子掛、靴箱、道具の引出なぎの場所を覺えさせる。

これは毎日幼兒たちの生活に是非必要なことであるから

第二日目にしておく。

年長組の遊戯を見る、始めてであつてもスキップなぎ出来るものはさせる。

砂場へ出て皆さ一緒にしばらく遊ぶ。

第二週 四月八日—四月十三日

月 第一日

お 話 猫のお見舞

お砂場遊び お山づくり

自由遊び ぶらんこ

火 第二日

年長組の遊戯を見る スキップ

唱歌 チューリップ

自由遊び 砂場 おにごっこ おまへごっこ

水 第三日

自由畫 自由畫帖にクレヨンにて

人形芝居 猫のお見舞

自由遊び

木 第四日

お 話 大きな球のはなし

遊 戲 行進 蝶々 駒鳥

自由遊び

金 第五日

砂場遊び お船づくり

おまへごころ

土 第六日

唱歌 チューリップ

つなぎもの 櫻の花に麥わら 絲に通す

第三週 四月十五日—四月二十日

月 この日よりお辨當始る。

午前九時—午後一時

唱歌 ままごころ

粘土 でんくゝ蟲 土筆

ラデオ體操

火 人形芝居 舌切雀

スリエ ヒヨコ

水 唱歌遊戯 ままごころ 蝶々

切紙 蝶々

ラデオ 幼兒の時間 童話をきく

木 お話 富子さんの風船

スリエ 風船

金 唱歌遊戯 兵隊さん 猫の子

自由畫

土 砂場遊び お山作り

おまへごころ

第四週 四月二十二日—四月二十七日

月 お話 かたつむり

自由畫

火 唱歌 君が代

スリエ 日の丸の旗

水 ラデオ 幼兒の時間童話

粘土 自由製作

木 お話 靖國神社

唱歌遊戯 鯉のぼり

金 園内散歩 摘草

土 紙仕事 國旗づくり

第五週 四月二十九日—三十日

月 天長節祝賀式

火 靖國神社例祭